



第11号

2013(平成25)年
11月25日発行

発行所
京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 三嶋統吾

「朋友」とは、同信のなかま。2008(平成20)年4月の仏教壮年会連盟発足にあたり、仏社員が力を合わせ、ともに歩みを進めていこうという願いから名づけられました。

「寄り添うということとは、 忘れないこと」 の言葉を噛締める

仏教壮年会連盟
理事長

三嶋 統 吾



自教区である熊本教区では、重点プロジェクトにおいて『災害支援』東日本大震災をはじめとする被災者の支援」を実践目標とし、「お寺ステイ事業への支援、積極的関わり」を達成目標の一つに定めています。また教区仏教壮年会連盟も、活動方針「重点目標」の一貫としてその趣旨に賛同し実行委員会発起人として参画しています。

その中で「第2回夏休みお寺ステイ熊本2013」が7月21日から8月1日に亘り実施されました。東日本大震災で被災した福島県いわき市の平商業高校女子ソフトテニス部22人が教区内の各寺院に分かれて合宿を行い、北部九州総体出場を前にして練習をされました。部員のほとんどが被災し避難生活を余儀なくされ、家庭の事情で遠征が難しい生徒もいるとのことで、受入と支援をさせていたいただきました。「震災以後、福島の海では泳ぐ事ができず、ぜひ海水浴に連れて行っていただきたい」との要望があり、

天草の海へ行った生徒のみなさんは大喜びだったようです。東日本大震災より2年半が過ぎましたが未だ全国には約30万人の方が避難生活を余儀なくされています。7月の教区会の研修では「福島から熊本に避難して来て思うこと」をテーマに、高済コズエさんよりお話を聞きました。「シーベルトやベクレル等の単位も知らず、チェルノブイリのような事は日本にはおこらないと思っていた。すでに循環器系の病気が出てきており、影響が今後何十年又は何百年かかるのかわからない」「同じ避難者同士でも、それぞれの立場上共通の話題で話せない」「熊本の人が福島から来たというのと、『ご主人の転勤ですか』という会話になった。もう福島は風化してきているのか」等、切実に語られました。

閉会の挨拶で議長が話された「寄り添うということとは、忘れないことだと思えます」の言葉を深く噛締めて支援していきたいと思えます。

福島は忘れられて しまうのか

東北教区仏教壮年会連盟
理事
丹野 功 一



私は原発事故のあった発電所から約65km離れた福島市に住んでいます。毎日、地元紙には、除染や賠償、関連死、放射能モニタリングの結果等、2年半経った現在も原発事故に関する記事が、紙面一杯に載っています。そんな生活環境の現状の一端を記します。

震災と原発事故により、避難している人は、県民約200万人の内、県内外で約15万人に上ります。私の一番下の妹も、その1人です。計画的避難区域と指定されたので、別の地域に家を借りて、移り

住んでいます。兄として、何もしてやれませんが、「体に気をつけてな」と元気づけるのが精一杯です。妹は、「早く家に戻りたい」といつも話しています。私の家から約2km離れた所に、居住制限区域に指定された浪江町から避難してきた方の仮設住宅が2か所あり、400戸が建っています。

幸せな日常生活を根底から奪われた人々のために、遅れが目立つ社会基盤の復旧に向けて、歩みを早めてほしいと願っています。



〈公園内に設置されているモニタリングポスト〉
(環境放射線量測定装置)
県内各地の測定値が、地元紙に毎日掲載されています



〈除染作業の様子〉
公園内の土を掘り起こし、樹木を切り取る作業が、市内の全公園で行われました

2012(平成24)年度 仏教壮年会連盟

「中央研修会」開催報告

仏教壮年会連盟
研修委員会副委員長

竹田直樹



2013(平成25)年2月16日〜17日に、本願寺の聞法会館において仏教壮年会連盟の「中央研修会」が開催されました。全国の教区(特区)より52名の仏壮会員がこの研修会に参加し、講師・理事・研修委員等を含め総勢79名が熱のこもった有意義な2日間を共にしました。

1日目は開会式の後、高田研修委員長より「研修のねらい」についてのお話があり、講義に入りました。講義①では石本龍憲活動推進講師より「浄土真宗の教義」について、続いて講義②では藤井邦磨活動推進講師より「今、仏壮に求められるもの」についてのご講義をいただきました。その後参加者は6班に分かれ、座長の進行のもと「話し合い法座」が開かれました。「仏壮入会のキッカケは?」「仏壮活動の楽しみ、よろこびは?」「仏壮活動の課題は?」などを一人ひとり話していただき、活

発な意見が出されました。私は写真担当としてすべての班にお伺いし、お一人お一人の写真を撮らせていただきましたが、みな真剣に発言者の話に聞き入りその熱意がファインダーを通して伝わってきました。

2日目はパネルディスカッションで、各班代表のパネリストが1日目の「話し合い法座」の内容を集約しながら発表していただいた後、全体会議では時間がオーバーするほどの熱心な意見が出されました。最後に講師の先生方から「まとめ」をしていただき、2日間の研修を無事終えることができました。

家に帰り普段の生活に戻った時、ともしれば忘れてしまう中央研修会での感動を思い出してもらうために、研修会のDVDを作成し、参加者全員に後日送付いたしました。参加された方は話し合ったことを忘れずに、これを機会にそれぞれの地域に

合ったやり方で出来ることから一步を踏み出していただきたいと思えます。そして2日間の感動を話す場を設け、一人でも多くの仲間を集めていただければ、この研修会に参加された意義があつたのではないかと思います。

なお参加者のうち、40代が5名、50代が11名でありました。本研修会の狙いである仏教壮年会活動の推進者の養成という目的からすると、40〜50代の方からいかに多く参加していただければ必要になってまいります。

平成25年度の「中央研修会」が来年 2月15日〜16日に予定されております。各教区(特区)2名の受講者を募集していただきますので、各教区(特区)には、今後の仏教壮年会活動のリーダーとなつて活躍される方や、後継者となつていただく40〜50代の方から参加していただければ、今からその準備をお願いする次第です。



「中央研修会」参加者の声



- 話し合い法座の時間も十分にあり、納得のできる話し合いや意見交換ができた。また、同じ部屋の人たちと語り合うことができ、いい出遇いが多くあった。
- 講師のお話が、気を抜けないくらい迫力があり耳に残った。私たち仏壮会員と、寺院、住職との関係づくりの大切さについて学ぶことができた。
- 仏壮に求められるものとして、理論的には理解できるが、それを実際に住職と共に活動できるかと言われると困難で



- あると感じた。個人ができるところから始めていきたい。
- 各教区で熱心に活動されている方ばかりで参考になることが多くあった。自分の寺に合ったやり方を発見し、工夫することの大切さを学び、前向きな気持ちになった。
- 仏壮活動の課題について、皆同様の悩みをもっておられ、実状と今後について話し合いを通じ勉強させていただいた。仏壮の活動には定められた形式がなく、地域・寺・門徒の実情に合わせて、住職と協力



- してできることから始めることが大切であると感じた。
- お寺の住職、坊守は門徒が育てるということに気づかされた。
- いつも決まった行事ばかりをしていたが、今回研修会に参加し、いろいろな催しがあることに気づけた。今後は私の所属する仏教壮年会で一考し、楽しい仏壮活動をめざしていきたい。
- 研修で学んだこと、帰敬式での心に響くお言葉を大切に、寺での仏壮活動を実践したい。

2013 (平成25) 年度 仏教壮年会連盟 中央研修会

「御同朋の社会をめざす運動」の理解と、仏教壮年としての意識の高揚と自覚を深め、
仏教壮年会活動のさらなる推進に向けて、ぜひ研修会にご参加ください。

- テーマ 今、仏壮に求められるもの
- 日時 2014 (平成26) 年2月15日 (土) 12:30 ~ 16日 (日) 12:00まで
※15日 (土) 11時45分より受付
- 会場 【研修会場・宿泊会場】 聞法会館 075-342-1122
- 受講対象 各教区2名 (沖縄県宗務特別区含む)
※本研修会は、教区幹部を含む仏教壮年会活動推進者の育成を目的とした研修会であります。
※60歳以下 (うち1名は50歳以下) が望ましい。
※評議員・教区 (特区) 仏教壮年会連盟理事長・既参加者は除く。
- 講師 仏教壮年会連盟活動推進講師
- 参加費 12,000円 (内訳: 受講料・宿泊代・食事代 (夕食・朝食) 等)

申込・詳細については、各教区 (特区) 仏教壮年会連盟事務局にお問い合わせください。

「自分の喜びを伝えて行く責任」

仏教壮年会連盟評議員
(岐阜教区)

加納 五郎



2013(平成25)年2月1日に岐阜教区が担当となり、第2連区の「寺院仏結成に向けた研修会」が開催されました。岐阜教区内の14組中12の組長及び未結成寺院のご住職・僧侶、総代会会長・門徒の方々など、当初の申し込み以外の参加もあり、78名が参加されました。

井上博雄岐阜教区教務所長は挨拶で、「忙しいからこそ聞法に励まなければならぬ」とお話を頂き、南荘乗宏仏教壮年会連盟活動推進講師からは「自分の喜びをこれからの人々に伝えていく責任」「仏結の役割の大きさ」などの問題提起を頂きました。

全体会では、組長などから「仏結の組織化に当たってどのような活動をするのか」「仏結の必要性は」「どのくらい本気になって活動しているのか」「仏結に女性は加入できるのか」「仏結という箱だけ作っても名前だけで会員が集まらない」「お寺に関わっている壮年層が少ない」「お寺に意見がありました。また「寺院仏結成だけではなく、地域の仏結として結成を目指している」「長年、仏結

結成に努力してきたが寺院仏結ができなかった」など結成にご尽力されてきた報告もされました。また、「寺院仏結の運営方法について」の質問もありました。門徒からは、「寺院仏結成を前向きに考えて参加した」「まず組織を少人数でも作る受け皿が必要」などの意見がありました。

最後に南荘講師は、仏教壮年会連盟綱領を引用され、「聞法の大切さ、先人より伝えて頂いた念仏をこれからの人々に伝える責任、柔軟な組織作り」についてお話を頂きました。

今回の研修会は、寺院仏結成に向けた確認と、教区仏結として、結成や活性化の取り組みに積極的に関わっていかなくてはならないことが再認識されたことと思います。



平成25年度新規登録単体会

(2013年(平成25)年4月1日～10月31日)

【北海道教区】

日高組 崇徳寺 崇徳寺仏教壮年会

【東京教区】

多摩組 應善寺 應善寺門徒会

千葉組 真栄寺 真栄寺致孝会

茨城東 常教寺 常教寺仏教壮年会

埼玉組 願誓寺 願誓寺仏教壮年会

【福井教区】 大野組 大野組仏教壮年会

【岐阜教区】 岐稲組 大願寺 大願寺仏教壮年会

【京都教区】 下西組 慶證寺 慶證寺仏教壮年会

呉竹組 教法寺 教法寺仏教壮年会

【奈良教区】 吉野北組 浄徳寺 朋林会

【和歌山教区】 有賀組 西方寺 西方寺仏教壮年会

【山陰教区】 鳥取伯耆組 善證寺 鳥取伯耆組善證寺仏教壮年会

【備後教区】 三次組 源光寺 源光寺仏教壮年会

【安芸教区】 志和組 妙徳寺 妙徳寺仏教壮年会

広陵東組 法光寺 法光寺仏教壮年会

【山形教区】

柳井組 専光寺 専光寺仏教壮年会

熊毛組 光照寺 光照寺仏教壮年会

豊浦西組 正音寺 法雷仏教サンガ

豊浦西組 眞行寺 眞行寺仏教壮年会

【山口教区】 豊浦西組 西念寺 西念寺仏教壮年会

豊浦西組 眞蔵寺 眞蔵寺仏教壮年会

【北豊教区】 小倉組 善行寺 善行寺仏教壮年会

小倉組 善龍寺 善龍寺仏教壮年会

【大分教区】 豊後高田組 浄周寺 浄周寺仏教壮年会

【長崎教区】 諫早組 桃原寺 桃原寺仏教壮年会

諫東組 光宗寺 法城会

【宮崎教区】 宮崎組 正覚寺 正覚寺仏教壮年会

廣陵西組 徳心寺 玄風倶楽部

佐伯沖組 徳正寺 三高德正寺仏教壮年会

深川組 明光寺 明光寺仏教壮年会

西善寺 西善寺仏教壮年会

【山口教区】 柳井組 専光寺 専光寺仏教壮年会

熊毛組 光照寺 光照寺仏教壮年会

豊浦西組 正音寺 法雷仏教サンガ

豊浦西組 眞行寺 眞行寺仏教壮年会